

かしこ村  
かしこあきら

成人向け  
R-18

# 洗脳快樂笑顔

JK柚子完墮ちNTR妊娠編





私の名前は柊柚子。次元戦争が終わってから約二年が経ち今は各次元との交流も捗り平和な日々が続いています。私は進学して高校生になりました。自慢じゃないけど体の方も発育よく成長しました。高校生活で大人の一步を踏み出しつつ相変わらず塾にデュエルに精を出す充実した毎目を送っています。

「…あれ？でも私何で服を脱いでいるの？  
それに「こはどこ」？私を触っているこの手は…」

思い出した…。私は――



私はドクトル様のものでした。私は十四の時彼に捕まり脳に蟲を寄生され洗脳状態に陥ってしまったのです。復活してからも脳内の蟲は残ったままです。私はこの二年ずっと彼に洗脳されたまま、彼の性奴隷として過ごしてきました。

「ああっ♡いいっ♡ドクトル様のおちんぽ  
…あひっ♡♡イっちゃう♡♡♡」

「ああ。君のまんこも相変わらず最高だ、柚子っ♡  
私もイクぞっ！ー」  
「中出しっ！」

普段彼のことは完全に忘れ何事もないように日常を送っているのですが、ドクトル様が求めたとき無意識に彼の元に向かうように仕込まれていてこうしてセックスをしてはイきまくり申出しされる毎を送っていました。







「あの…んっ♡あつ♡ドクトル様…うひっ♡  
とても大事な…お話がありましたて…んいっ♡」

「ぶっ♡ぶっ♡ん？何だっ♡」

「あっ♡」…この関係…終わりにできないでしょうか…♡」

「？ ぶっ♡だっ♡」

「実はその…あいつ♡遊矢に告白されて…私もずっと彼の…と想つてて…  
ほ、本気なんです。おおおっ♡彼も私も…だから、  
裏でこういう行為をしているの…罪悪感があつて…んひっ♡  
普段はドクトル様のこと忘れてるのは承知しているんですけど…  
その…彼の…ことを想うと最近…セックスに集中できなくてその…  
あつ♡あつ♡いっ♡ちっ♡や…♡♡」

私は無理なお願いでありドクトル様を怒らせることは  
わかっていたのですが、  
勇気を出して自分の本音を暴露しました。  
ドクトル様はこの後黙り込んだまま腰を打ち続け、  
私の膣内に射精しました。



翌日ドクトル様から意外な返事が来ました。  
脳内の蟲を取り出し、私を洗脳状態から解放すると  
言ってくれたのです。その代わりー

「今日はドクトル様との本当の子作りをする大切なセックスになります。  
どうぞいつも以上に激しくこのまんこ私の全身を好き放題犯してください♡」

そう、ドクトル様の要求は本当の子を産むこと。ドクトル様もあの歳だから  
そろそろ子供を残したいという意向でこうなりました。  
本当の子を孕み出産する…少し戸惑いや葛藤はあったものの、  
セックスして中出しされて孕み出産する。いつもやっていることと変わらないため、  
私はその要求を快く受け入れ、いつものように自ら股を開き  
いつものように自分からドクトル様とのセックスを懇願しました。  
「よしよし。よく私の子を産むことを決心してくれた。では改めて誓いのキスを♡」

「はい。ちゅ♡ちゅ…べろお♡私は…ドクトル様専用の融合素材です。  
じゅる♡この性奴隷にどうか子種をたくさん流し込み…ちゅ♡ちゅ♡  
本当の子を孕ませてください♡ちゅ♡ちゅ♡」





いつものように誓いのキスをしたあと、いつものようにドクトル様のおちんぼへのご奉仕に移りました。

「んっ♡んっ♡ドクトル様の、相変わらず大きい…。ちゅ♡じゅるっべろお♡そしてこの臭くて苦い味、相変わらず美味しい♡」

「柚子ちゃんもおっぱいをこんな大きく成長させて。

妊娠させなくとも私のちんぼをパイズリできるほどになるとはなあ。

処女を奪ったころからは考えられんよ。おっ♡ほっ♡上手いぞお。

その柔らかいですすべな巨乳でちんぼを包み込み先っぽは口で刺激して

媚びたような上目遣いをする…パイズリもずいぶん様になったじゃないか♪」

ドクトル様と毎日セックスし妊娠出産を繰り返してきたためか、

私のおっぱいは急成長し巨乳と言われるくらいのサイズになりました。

おかげでこうしておっぱいを使ってご奉仕できるようになったのです。



「んぐっ♡んぐ」…♡ゆるるるるるる♡♡

ご奉仕するのは胸だけではありません。口や舌、喉を使って  
フェラチオ、イマラチオをしドクトル様のおちんぼから精液を搾り出そうとします。  
「おお♡柚子の口まん♡いいぞお。そろそろ出すぞ！」

息ができなくなり少し苦しいですが、全身性感帯に調教された私は  
口も喉も当然おまん♡状態になっているためドクトル様の美味しい  
おちんぼの味を堪能しつつ性的快楽を享受し最後は口だけで  
いつてしまいます♡

「ぶっ♡うっ。今日もいっぱい出たあ♡相変わらず柚子の口まん♡は最高だ♡」  
ドクトル様の精液は当然全て飲み平そうとするのですが、  
彼の射精量は尋常じゃなくいつも飲み切れず溢してしまいます。  
さらに口に出しきれなかった精液を私の顔にぶっかけ私は精液まみれになります。

「んっ♡♡んっ♡♡んっ♡♡今日もいっぱい出していただきありがとうございます。  
ごちそうさまでした。ドクトル様のザーメンすっ♡濃厚で美味しかったです。  
私も口まん♡気持ちよくなって何度も何度もイっちゃいました♡」

私はいつものようにお礼の言葉を述べ次の準備に移りました。



ドクトル様は前戯として私の全身を舐め回します。

「柚子ちゃん自慢の腋、相変わらず極上の味だあ♡」

「んっ♡んひっ♡腋まん♡溶けちゃうう！イクっ…♡」

なんでも花鳥風月の「花」を司る私は体臭が花の香りがして、体液が蜜の味がするそうです。ドクトル様は私を世界一美味しくて最高の女の体だと形容します。

「あひっ♡あひ、足でもイっちやういっち♡」

そのためかドクトル様は汗をかきやすく体臭が濃い腋や足裏を好んで舐め回します。私もドクトル様を喜ばせるためにセックスの前はいつも無意識に汗をいっばいかいてきます。

「ちゅ♡べろお♡ふふ♪柚子のおっぱい、時間はかかるがそのうち本当の子を孕ませて本当の母乳が出るようにしてあげるからね♡」

「あっ♡んひっ♡乳首らめええ♡イっちやういっち♡」

全身性感帯の私は当然どこを舐められても敏感に反応してすぐにイっちやいます。



「ああーっ♡ほああああーっ♡いっちやういっちやうーっ♡♡♡」

そして前戯の仕上げはクンニです。  
体中舐め回され敏感になったところに本当の性感帯である  
おまんこをねっとりといやらしく舐め回され私はいつも  
潮を盛大に噴きながら何度もイってしまいます。

「うひひひひ♪相変わらず敏感なおまんこだあ。舐めるたびにイってるぞお。  
おまんこ自体美味だが、この愛液と潮の味は汗以上に甘くて濃厚で  
極上の味だあ♡べろべろべろ♡じゅるるるるる♡」

ドクトル様は私の潮が美味しいからと何度も吸い舐め続け、  
私はその都度イきまた潮を噴く。そんな循環が続くため、  
ドクトル様のクンニはとて長く続きます。  
終わるころには私のまんこはイきまくってビクビクとるところの状態で  
セックスの準備万端の状態に整います。



そしてドクトル様と「ついに融合っ♡」

「んなあああああああああーっ♡  
太iiiiiiiiいっ♡」

「今回は本気の子作りセックスだからね、最後の最後まで存分に愉しめるよういつも以上に激しく犯してやるからなあっ！」

いつもは処女を捧げた時のように、私の方からゆっくりずぶずぶとドクトル様のおちんぼを咥え込んでいくのですが、今回は本当の子を孕ませるためのセックスだからか、ドクトル様から率先して一気に私の奥まで突っ込んできました。私はあまりの激しさについて挿入だけでイっちゃいました♡



「ふっ♡ほっ♡しかし…残念だよ柚子。君の方からまさかこの関係を断ちたいと申し出るとは夢にも思わなかったよ。君は自らフェーストキスと処女を私に捧げ、復活して以降二年もの間ずっとこうしてセックスし妊娠・出産をする関係だったのに、君は完全に私のもものになったはずなのに…。洗脳状態で行為中にこの話題を切り出したという事は、本気なんだね柚子。所詮私との愛の融合など洗脳による偽りの愛であつたのだと痛感したよ。」

「んっ♡んっ♡  
「あんなさいドクトル様  
…私…ひあぁっ♡」

「おっ♡おっ♡いいんだよ柚子。私は君を愛しているからねえ。遊矢君には嫉妬してしまうが、本当に愛し合える人がいるならそれで…。私は君が私の本当の子を産んでくれれば、それで満足し君を手放す決心がつくから。だから最後の瞬間まで悔いのないようお互い快樂に溺れ身も心も一つに融合に溶けあおうじゃないか♡」



「まったくこんな大きくいやらしく育って…けしからん！  
だから遊矢君も欲情したんじゃないのか？この淫乱スケベ奴隷め！」

そう言ってドクトル様は私のまんこに激しく  
腰を突きつけながら  
私のおっぱいを揉みいただきました。  
おっぱいも性感帯になってる私は  
快楽と刺激が二重二重になり  
さつきよりさらにイきまくりました。

「この…おっぱいはあ…んひっ♡ドクトル様が毎日の…こうしてセックスしてえ、私を孕ませてえ、んあ、んああああーっ♡  
だから、だからこんなんに大きくなつたんです。だから好きに揉んでください…んおおっ♡おっぱいらめえええー♡  
またイっちやううっっっ♡♡♡」





「おちんぼ…いいっ♡…気持ちいいっ！  
ふぐっ♡ふーっ♡ふーっ♡  
ふういっ♡うっっ♡♡♡」

洗脳状態である私は、たとえ遊矢への想いがあるうと  
ドクトル様のおちんぼには敵いません。  
まんこの入り口から膣の中、奥の子宮までおまんこ全体で  
ちんぼの感触と快楽を味わえるよう自ら腰を振ります。  
快楽に溺れちんぼに夢中になってしまいます。

「ああっ♡ドクトル様のおちんぼっ、  
おちんぼおお♡♡」

「ああ、柚子のおまんこも最高だ！私もそろそろイかせてもらおうか。  
わかるな？柚子。さあ、私にどうしてほしい！」







ただいつものように中出しされたら即妊娠というわけにはいかないので、毎日会う時間を決め、毎日子作りセックスに励みました。

ただいつもと違い不思議に思ったのは、普段の日常でもドクトル様のことを覚えていたのです。おそらくこれが最後になるから、日常でも覚えていたように脳を弄ったのだらうと思いました。

そして初の子作りセックスをしてから一か月後、とうとう妊娠が発覚しました。お腹の子は順調に育ち、すくすくお腹も大きくなり妊娠2か月にもなるとお腹を隠すことができなくなったためアカデミアに一時留学すると嘘をつき出産までドクトル様の家で寝泊りする事になりました。そこで今一度、約束通り出産したら洗脳を解き脳の蟲を取り出してほしいと頼んだのですが、その時衝撃の事実が判明したのです。

「え……？ドクトル様、今なんて……!？」

「だから、脳内に蟲があれば中出しした瞬間効果が発動してモンスターを妊娠してしまうだろう？つまり今こうして私の本当の子供を妊娠しているのは、脳から蟲を取り除いていたからなんだ。子作りセックスを始める直前に、君の洗脳はもうとっくに解けていたんだよ。」

「そ……それじゃあ私は、自らの意思で毎日セックスをしていたというの!？」

洗脳なしで、あんなにもいきまくり、全身おまんこ状態になっていたというの!？  
そんな……そんな！それじゃあ、私はもう、完全にドクトル様の……!？」

そう、何度も融合してきた私は、もう洗脳に関係なくその脳と体にドクトル様の愛とおちんぼの快樂が刻み込まれていたのです。私は完全にドクトル様のものになっていたのでと悟りました。

ちよとした恋心にはもう惑わされぬ。私はこれからもドクトル様の性奴隷として、何度も融合し続ける。そう決意しながら、私は出産の日を迎えました。































































